

人工知能×アダプティブ・ラーニング！クラウド型学習システム「すらら」 スリランカにて学習塾「Surala JUKU」が 10 校を突破

1校目の開校から約1年半で12校開校

株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：湯野川孝彦）は、独立行政法人国際協力機構（JICA）による民間連携事業協力準備調査 BOP ビジネス連携促進の採択を受け、スリランカの BOP 層（※1）の子どもたちに、教師のレベルに左右されずに効果性の高い算数教育を低価格で提供する e ラーニング塾のビジネスモデルの構築を目指しています。この度、新たに3校の「Surala JUKU」が開校することとなり、スリランカにおける塾は1校目の開校から1年半足らずで10校を突破し、計12校となります。スリランカでは受験競争が過熱し、有名学習塾は多数あるものの、チェーン展開をする学習塾はほとんど見られず、Surala JUKU は非常に稀有な存在になっています。



今回新たに開校する3校のうち、「Surala JUKU マーラベ (Malambe) 校」(8月11日開校予定)と「Surala JUKU ホーカダラ (Hokandara) 校」(8月末～9月上旬開校予定)は、女性銀行（※2）が運営を行います。女性銀行は既に「Surala JUKU」を8校運営しています。スリランカにこれまで無かった「各児童の能力に合わせて個別に学べる教育」として、その意義や価値が各支部にさらに広まったことから、Surala JUKU の開校希望が多く支部からあがり、開校が加速しています。

たとえば、昨年9月に開校したタラヘナ校のファシリテーター（生徒の指導役）が所属しているマーラベ支部では、「自分のエリアでも広めたい」という支部スタッフの熱意によりマーラベ校の開校に至りました。開校前の段階で既に50名の定員を超える68名の申し込みがあります。

ホーカダラ校は、同じく昨年開校したタラヘナ校に通う児童の保護者達から、「家からもっと近い地域に開校して欲しい」という要望が出て、今回の開校に繋がりました。

「Surala JUKU ボルパナ (Borupana) 校」(8月15日開校予定)は Foundation for Health Promotion (FHP)（※3）が運営パートナーとなる塾です。FHP としては、JICA 採択の本プロジェクトのトライアル校として昨年5月に開校した校舎に続く2校目となります。既存のトライアル校で働いていたファシリテーターが経営する幼稚園内に併設する形で、パソコン3台のみの小規模校ですが、既に50名以上の申し込みがあります。

「Surala JUKU」は、Grade1 から Grade4（日本の幼稚園年長～小学3年生相当）の児童を対象とし、スリランカの主要言語であるシンハラ語版にカスタマイズしたクラウド型学習システム「Surala Ninja!」を用いて日本の算数技能を学ぶことができます。同時にパソコンの使い方が身につくこと、日本流の「しつけ」（規律や自立学習）も教えることなどが生徒や保護者より高評価を受けています。

スリランカは識字率が高いものの、「教えることは教師の仕事だが理解するのは生徒の役目」といった認識を持つ教師が比較的多く、教育格差が生じやすい状況にあります。「Surala JUKU」では、「すらら」を活用することで、教師のレベルに左右されることなく、生徒たちは各々のペースで計算の基礎を効率よく学ぶことができます。一方、ファシリテーターは、日本流の「しつけ」を教えたり、学習管理やモチベーションを上げる役割に集中することができます。

すららネットでは、「世界中の教育格差の根絶」を理念としており、今後も品質の良い教育を低価格で提供することで、教育格差を解決していきたいと考えています。

（※1）「Base of the Pyramid」の略。世界の所得ピラミッドの中で最も収入が低い所得層を指す言葉。約40億人と言われている。

（※2）女性銀行：BOP層の女性を対象としたスリランカのマイクロファイナンス組織。今回のプロジェクトを通じて、BOP層へのファイナンス支援だけでなく、教育支援と雇用創出も行っていく計画。

（※3）Foundation for Health Promotion (FHP)：BOP層を対象に親の健全な生活習慣を根付かせることにより子どもの生活・教育レベルを引き上げるなどの活動を行う組織。

■クラウド型学習システム「すらら」とは

【学習範囲】 小学校高学年～高校 3 年生までの学習指導要領に準拠

【対応教科】 英語・数学（算数）・国語

【利用者数】 約 34,000 名（2016 年 6 月末現在）

【特徴】

○Point 1 スモールステップでわかりやすいインタラクティブ授業

1 つの単元は 10 から 15 分程度で、小さな階段を少しずつ上るような構成。

しかも授業は一方的ではなく、随所で先生役のキャラクターが問いかけを行い、問題に答えていくというインタラクティブスタイル。そのため、飽きることなく、適度な緊張感を持続し、楽しみながら学習を進めていくことが可能。

○Point 2 難易度調整や弱点診断ができる演習ドリル

一人ひとりの理解度に応じて出題される問題の難易度を調整する「出題難易度コントロールシステム」を搭載。「簡単すぎず難しすぎない」問題が出題されることで、達成感を感じ自信を深めながら、学習を進めることが可能に。また、何がわからないから問題が解けないのか理由を探る「弱点自動判別システム」も搭載。

○Point 3 現役の塾の先生による手厚いフォロー

いつまでにどこまでの学習をするかといった「月 1 回の目標設定」や、つまづいているところがないか「週 1 回程度の電話やメールでの進捗確認」など、継続して取り組めるよう現役塾講師がフォロー。また、クラウド型学習だからこそ、学習内容や正答率・解く速さなども詳細に把握できるので、お子様一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導が可能。

<参考>これまでの e ラーニング教材の大半は以下の 3 パターン

1. 動画配信型：カリスマ講師のレクチャービデオを視聴するタイプ
「理解」にはすぐれているが「反復」の部分がないうえにやりっぱなしになってしまい、実力が身につかない傾向がある。また、一方的な説明となるため、比較的意識の高いお子様でない、集中力が続かない。
2. 問題集型：問題集の結果をパソコンに打ち出して結果分析をするタイプ
「定着」にすぐれているが「理解」の部分がないうえに、学力の高い生徒でない、一人で学習を進めることが困難な傾向がある。
3. ゲーム型：携帯用ゲーム機などを使って学習するタイプ
非常に楽しく学習できるが、単語など反復による暗記系が中心で、体系的な学習には不向き。

「すらら」はこうしたそれぞれの短所を補い、長所を相乗効果的に組合せた、理想の"次世代型教育システム"です。



■「すらら」の“アダプティブ・ラーニング”機能

生徒の解答結果から独自のアルゴリズムにより苦手部分を分析・特定し、生徒それぞれに最適化した学習すべき解説や問題を自動で提示する機能。学習者が苦手分野を自分で克服できるようにする。

■「すらら」における“人工知能”

AI が生徒の学習データに基づき先生の替わりに生徒と対話を行う機能「AI サポーター」を搭載し、生徒のモチベーションに与える効果について慶応義塾大学 中室牧子研究室と共同研究を実施中。

■ 株式会社すらら ネット 会社概要

- 設立：2008 年 8 月 ○ 資本金：13,795 万円 ○ 所在地：東京都千代田区内神田
- 事業内容：クラウド型学習システムによる教育サービスの提供および運用コンサルティング、マーケティングプロモーション及びホームページの運営
- 会社 URL： <http://surala.jp/>
- 受賞歴：
 - ・ 第 9 回日本 e-Learning 大賞 文部科学大臣賞(2012 年)
 - ・ Japan Venture Awards 2014 中小機構理事長賞(2014 年)
 - ・ 第 2 回「日本ベンチャー大賞」社会課題解決賞（審査委員会特別賞）（2016 年）
 - ・ 第 8 回「千代田ビジネス大賞」大賞(2016 年)